



今年も6月の第二日曜日がめぐってまいりました。

皆様方にはご健勝にお過ごしのことと存じます。

いつもこの同窓会を準備する側として、母校をお借りして毎年開催される同窓会総会なので、共存の気持ちをもって時間通りに終了しよう、事故なく無事に!!!と常に考えております。そして出席された方々が参加してよかったと思えるような会を催したいと願います。

日頃よりのご協力を心より感謝申し上げます。

(理事長 桐村則子)

ごあいさつ

杉並第二小学校 校長 青木利夫

伝統ある杉並第二小学校へ、四月一日付けをもちまして着任いたしました、青木利夫です。よろしく願い申し上げます。

着任して二ヶ月弱しか経っていませんが、多くの場面で、地域の皆様の、とりわけ、同窓生の皆様のお力添えの多さを感じております。

さて、今、学校は、子どもたちの登下校や放課後、休日における安全確保の充実など、また、子どもたち一人一人の確かな学力の定着と「よさ・可能性」の伸長、思いやりの心の育成へつながる学びの充実に努めております。さらに区の教育ビジョンの方向性の一つとして、地区教育委員会が示されています。

このように、今後ますます、地域の皆様、そして同窓生の皆様との連携・協働が必要になっております。子どもたちのすこやかな成長のため、杉二小のさらなる発展のために、これまでも増して、皆様のご尽力がいただけますようお願い申し上げます。

(編集・文責：昭21卒 岩田和保)



第12号

杉並区立杉並第二小学校
同窓会事務局編集
平成十八年六月十一日発行



杉二の自然環境

杉二に在籍した人なら文具店「安盛堂」と「尾崎熊野神社」はご存じだろう。神社の名前は忘れても、南北に細長い参道をもつお宮は記憶にあるに違いない。私らが通っていた頃は、お宮の裏の崖が遊び場だった。昭和43年に杉並古代文化研究会がここを発掘調査したところ、縄文時代の竪穴住居跡や土器・石器、弥生時代・古墳時代の土器や土師器などが出土して、この地には古くから人が生活していたことが分かった。

鎌倉時代に紀州の熊野権現を勧請して創建された尾崎熊野神社は須佐之男命の子「五十猛命」ほか2柱をご祭神とするが、五十猛命は天高原から降臨されたとき植物の種を持ってきて蒔かれたという。日本の国土が緑に満ちているのはそのためだとの神話がある。神社には根廻り5メートル、高さ32メートル、樹齢400年余の黒松の巨木がある。御神木で杉並区の天然記念物に指定されている。黒松は酸性雨や大気汚染に弱く都心では巨木は見られなくなったが、この松は元気である。それほど杉二の周囲は自然環境に恵まれているのだ。

校庭には「三年坂」に沿って4本の桜の古木が健在である。今は南門と呼ぶ石柱の門は昔は「正門」だったから、この門と入学式を華やかに祝ってくれた桜たちに、幼き日々の懐かしい思い出が染み込んでいる。(岩田)

土曜日学校でゲストティーチャー第1号



かねてより学校評議員会で同窓会へ依頼がありました杉並第二小学校の土曜日学校で、昨年9月17日同窓会常任理事岩田和保氏がゲストティーチャーとして総勢90人のこどもたちと保護者の方々に“戦争中のこどもたち”という講話をされました。岩田氏はご自身の実体験はもとより、事前に国会図書館へ何度も足を運び、戦争中の庶民の生活をつぶさに調べ、当日に臨まれました。戦争当時使用されていた道具の説明も、いろいろと工夫されました。こどもたちにとっても分かり易く、大変好評のうちに終了いたしましたことをご報告申し上げます。本当にありがとうございました。(桐村)



杉二と音楽と子どもたち

昭和26年卒 勝村克子
(旧姓 鈴木)

私は、終戦になる年に入学しました。

当時は、戦争により受けた様々な痛手から、あしたへの希望と夢に向かって国民全体が歩み始めた時でした。

学校の授業は正常にはおこなわれず、二部授業が暫くの間続きました。

やがて終戦になり、教育の現場も徐々に平静を取戻し、現在のような形態を採りつつ、初めて給食制度も採りいれられて、学校教育にも次第に熱が入って参りました。その頃、世の中では、まだまだ衣食住には満足出来る状態ではありませんでしたが、誰もが生きる事に本当に一生懸命な時代でした。

そのような環境の中でも、先生方も生徒も授業に真剣に取り組み、人としての道標にも深く係わって、先生にはご指導頂いたと思っています。

私が今日まで幼児音楽教育にかかわってこれたのも、杉二小時代に音楽との出会いがあり、この道を志したと思っています。

杉二小時代の音楽の授業はどうだったでしょうか？

私たちの低学年のころは、教室にある足踏みオルガンを先生が弾きながら、文部省唱歌を教えて下さり、校歌も歌えるようになる迄、何回も練習して覚えた記憶があります。

高学年に入り、学芸会の時期になりますと、その準備に多忙を極めたこともありました。劇、歌、踊りなど、夕方遅くなるまで練習を重ね、いざ本番の時のステージは机を並べてのにわか舞台でしたので、高さが不揃いだったり、歩くたびにゴタゴト音がするような中での学芸会でした。しかし当日までの練習は真剣そのものでしたので、今でも当時の事は鮮明に覚えています。

期末になりますと、歌のテストがあり、男子はいやがって、ほとんどの人が歌わなかった。今思えば、丁度変声期にさしかかっていた頃でした。

小学二年生の時に歌の好きだった母からお隣の先生が音楽を教えていらっしゃる様だから、ピアノとうたを教えて頂きなさいと言われ、音楽の勉強を始めました。

高学年に入り、当時はNHKの「子供の時間」に歌のおばさんとして出演した「杉の子子ども会」を主宰しておられた安西愛子先生のもとに入会いたしました。

そこから徐々に音楽の世界が広がって行った様に思っております。

その頃は、童謡全盛時代で、大きなホールやレコード会社の録音とか、先生に連れられて、NHKの当時内幸町にあった第1スタジオに「子供の時間」の生放送のために授業を休んで出演したりしました。

今のタレントの様なものでしょうか？

そのような中で見ていた安西先生を子ども心に立派でとてもステキだと感じ、知らず知らずの内に、私も将来先生のように、子ども達に囲まれて、音楽の指導が出来たらどんなに素晴らしいだろうと考えていました。

今思えば、その時の経験や体験がより専門的な方向へと導いてくれる事になったと思います。

受験を経て、桐朋学園高等学校音楽科へ入学出来ましたが、驚きましたのは付属の「こどものための音楽教室」から来た生徒達は全て絶対音感を身につけていて、楽譜があれば、いつでも正確に歌ったり演奏してしまう事でした。ご存じの方も沢山いらっしゃると思いますが、世界的に有名な指揮者小澤征爾さんの母校です。

大変な所に入ってしまったと感じましたが、音楽に関する訓練は、クラシックに限らず、幼児の時から聴覚の発達と共に音への感覚を身につけさせます事が非常に重要である事を学び取りました。

音大卒業の頃には、幼児音楽教育が大変盛んになり、家で教える傍ら、楽器会社の開設する音楽教室に講師として入り、数年して指導講師として貴重な経験をさせて頂き、音楽家を育成する学校と楽器を普及させながら、音楽教育を広めようとする両方の教育に接する事が出来ました事は、今までの私の音楽人生をより豊かにしていますし、この地域を中心に多くの卒業生を輩出し、各々が色々な分野で立派に活躍をしてくれているのは嬉しい事です。

私が地域の中で、子ども達を教える立場になり、学校を取り巻く環境も変わり、世の中の状況も日進月歩でスピードアップして来ました。

習い事として、音楽（ピアノ）が主流を占めていた時代から、現在のように沢山の中から好きなことを選択できるという時代に変化して来ました。

その為に、子ども達の習い事への態度が変わってきているように感じています。

1つ1つのことにじっくり取り組むタイプ、毎日色々な経験をしながら、その時々を消化していく、そのような状況を見るにつけ、将来が不安に思われてきます。もう少し余裕をもって、自分自身をみつめる時間があってもいいので

はないかといふ考えてしまいます。

私は、そのような思いもあって、二年に一回開催している生徒達の発表会の場を出来るだけ大きな広い場所で、普段の成果もさることながら、ステージの上で、どれだけ自分を表現できるかを経験してもらっています。

どんな場面におかれても、自分を失うことなく、沈着冷静に行動がとれ、正しい判断の出来る人になってもらいたいと願いながらのことですが・・・。

最近、学校の音楽の授業で、あまり教科書を使っていないということを耳にします。

今流行している曲を取り入れることは生徒達も喜ぶし、良いことだと思いますが、教科書には古くから日本の唱歌として、歌いつがれてきた歴史を感じる良い歌が、学年毎に選曲されて載っていますので、先生方には是非、生徒達に教えて頂きたいとお願いいたします。

特に小学校時代に大きく口を開けて、お腹から声を出して歌うことは、身心の発達に大変重要なことだと思います。

現在、音楽人口が減少している事は非常に残念に思っています。

個性を大切に、自分を表現する手だてを一つ持つ事は、バランスのとれた人間形成にとっても大切であると、私は信じ、ご父母の皆様に事ある毎にお話しして来ました。

子どもたちの本質は今も昔も変わりはない。しかし能力や感性は各々違う。しっかりと子どもの性格を見極め、音楽を通じて、心豊かなバランスのとれた人に成長してもらいたいと、いつも考えながら、日々生徒に接し、指導をして参りました。

今後も技術のみに偏らず、人間形成を第一に考え、生徒達への指導にエネルギーを費やしたいと考えています。 (終り)



楽しい思い出 ほろ 苦い思い出

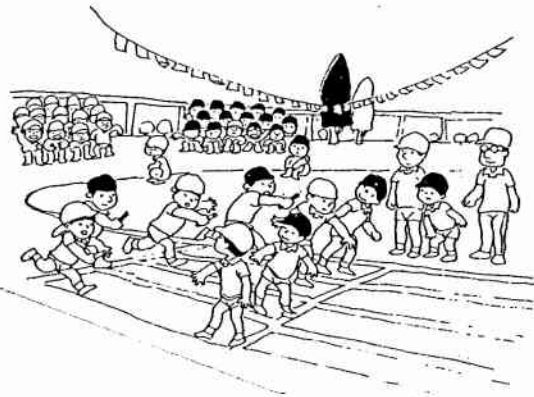
天海朋子(旧姓 水田)

杉二と言えば、目に浮かぶのは、ピンクの図書館と2階建ての校舎です。音楽室は壁に作曲家達の写真がぐるっと貼られていて、杉村先生(?)のピアノの横に一人一人立ち、コーリューブンゲンや童謡を教えてくださいました。器楽合奏も盛んでしたね。理科室はホルマリン漬の壇などが並ぶ、ちょっと気味の悪いところで、料理実習をした記憶があります。

運動会では、先生方とのリレー競走や北川先生のご指導のもと、長いリボンを持って踊るメイポールダンスなど素敵でした。夏休みには那須の林間学校や岩井の臨海学校など楽しい思い出がいっぱいです。

またほろ苦い思い出もあります。私は校長室の掃除当番の時、机の上のガラスを割るという大失態をしてしまいました。

でも丸山校長先生は正直に謝ったからよろしいと許して下さいました。学校の東側には田圃が広がっていて、校長先生は畦道の草を取り、「こするとギシギシと音がするので、これはギシギシです」とおっしゃったのが、何故か今も耳に残っていて、懐かしい思い出となっています。



ボロは着てて心は錦 稲垣文弘

昭和30年とは、まだ戦後10年の時期であり、官庁で勇躍、自衛隊予備隊創設、民間航空業界も米軍のお下がり航空機で発足などの明るいニュースもあったものの、基本的にはお父さん達の職場はなく、当時の小学生の各家庭では、献身的な母親の内職にすぎるとも貧乏な時代でした。

靴下に穴が開き、継ぎ当てのズボンをはくなど当然のことでした。朝はボウフラの湧いた防火用水で顔を洗い、昼は生の小芋を食べ、夜は母の内職の集金に走りました。

私のいた4軒長屋アパートの住人たちは、崩れ行く女性ダンサー、酔っぱらった新聞記者、夫がヒステリックに女房に暴力を振るう夫婦者など、今思えば、凄まじい世界にいたものです。

こんな少年が公務員、その後企業の一員として生育できたのも、小学校の頃、先生方に「宿題など約束事は、きちんとする勤勉実直性」、「授業が終わっても、分からないことは補習していただいたフォロー精神」、「皆にやさしくあるべきことを教えていただいた道徳教育」によるものと思っています。

死の直前、母が口にした言葉は、「お前はいい子でした。とても安心できました。特に初めての給料全額を貰ったときに、やっと一人前にできたとの実感と感謝が湧きました」と。さて私の場合には、息子達に何て言われますかな？

いずれにせよ、先生方、誠に有り難うございました。

杉二小の思い出——卒業して50年(昭和30年卒)

生き生きとした空気

雁部輝子(旧姓 鶴見)

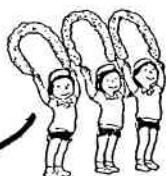
春はれんげ、秋は黄金色の稲穂に彩られた通学路。小学校の立つ尾崎の丘への坂道は、あの頃はずいぶん急であったように感じられたものです。いじめっ子が待ちかまえていると言われ、緊張して登った坂もありました。しかしそれは子ども達の間のたわいのない伝説であったのでしょうか？そのいじめっ子には一度も出会った記憶が無いのです。

私が入学した昭和24年頃は、まだ方々に戦争のなごりが見られ、校庭の裏側の崖には防空壕が口を開けていましたし、復員して間もない先生もいらっしゃいました。短時間ではありましたが、二部授業も経験しました。

一年生の国語の教科書は、「お花をかざる みんな良い子 きれいなことば みんな良い子」という文章で始まるものでしたが、そこには戦後日本の教育への思いが込められていたのでしょう。杉二の校内にも生き生きとした空気があふれていたように思います。

杉二での生活をふり返った時に、まず浮かぶのは、学芸会や運動会への熱心な取り組みです。「メイポールダンス」もその一つですが、数年前北川先生(6年4組の担任の北川政子先生)にお目にかかった折に「ずいぶん資料を集めて導入した」と伺いました。

また校内放送も生徒達の手でかなりの部分を運営していたのではないのでしょうか。お昼の給食の時間に放送室から合唱の生放送をしたこともありました。その後の私の学校勤めの経験から考えても画期的なことをやっていたものだと感心します。



楽しいことばかり

佐野阿佐子(旧姓 小山)

杉二までは、田畑を横目に見ての遠い遠い道を歩いて二部制の授業という形で始まった小学生時代でした。

なぜか楽しい事ばかり思い出されます。

校庭に咲きほこる大木の桜の下でのドッチボール、ピンク色の図書館で読んだ本の匂い出来立てのプールでのバタ足泳ぎに皆して大歓声、ガリ版刷りで顔や手まで真っ黒になってしまい、友達と見合って大笑いした事。

そうそう校庭の一部に防空壕跡があって近づくことを禁じられていた所になぜかワクワクして覗きに行ったこと。

どれも大切な大切な思い出となっています。

楽しかったことばかり

川瀬幸子(旧姓 村山)

校門の桜、崖の下のプール、ピンクの図書館、給食室、校長室、職員室、先生方のお顔めがねの丸山校長先生、登校時、私の後ろからポーンと叩いて、私のあだ名の“ラッキョーさん”と声を掛けてくださった事、校長室の掃除当番のとき、また鉄棒の逆上がり、カレーライスをつくった家庭科の時間、持参した家の皿がスナップ写真に残っていて、またあの味が忘れられない50年。

ドッチボールが盛んで、放課後頑張って楽しんだこと、小川の流れる道を友達と道草しながら下校した時々・・・沸々と思い出されます。

楽しかったことばかり思い出されます。

なぜでしょうか？



会 員 短 信

(第21回総会欠席者のお便りから)

♡ごくろう様です。おかげ様で私も八十五歳。元気でおります。春になると杉二の校庭の桜を思い出します。麦畑の中を登校したことも忘れられません。川遊びをした善福寺川のほとりに今も住んでおります。何のお役にも立てませんことを申し訳なく存じます。

(昭8卒 岩田光子・旧姓佐藤)

♡9年前栃木県那珂川町に『いわむらかずお絵本の丘美術館』を開設、創作とともに活動を続けています。皆さま遊びに来てください。

(昭27卒 岩村和朗)

♡80の手習いで、慶応大学名誉教授小泉仰先生の「新訳聖書を読むためのギリシャ語」月1回成宗教会(五日市街道沿い)に出席しております

(昭16卒 柏木則子・旧姓有馬)

♡明治44年生まれの母も杉二に通いました。昨年7月に94歳で亡くなりましたが、母娘でよく杉二の話をしたものです。母の頃は寺子屋式だったのででしょうか。

(昭25卒 斉藤悦代・旧姓斉藤)

♡医者に行っても「加齢デスネ」と簡単に片付けられないよう精々頑張っています。

(昭15卒 梅原 寧)

♡生まれ育ちました東京を離れて、会津若松市のケアハウスに入居しましたが、杉並が恋しい日々です。

(昭22卒 二瓶洋子)

♡私共同期生は77才・78才となりますが、毎年12月に同期会をいたしております。来年は一度此の時期に計画してもらい、なつかしい学校を見たいと思います。同期会は20人以上集まります。

(昭15卒 清水不二・旧姓前田)

♡18年10月7日(土)日比谷公会堂で行う第14回東京校歌祭の準備で多忙です。私は豊多摩高出身で母校の名誉のため頑張ってます。杉二小は戦争どさくさでしたが兄弟4人学んだ学校で懐かしい。

(昭20卒 松岡和雄)

善福寺川周辺 (杉並区)



* 金田一春彦 さん

国語学者

1913年、東京生まれ。東京大文学部卒。専攻は国語学。主な著書に「日本語(上・下)」「岩波新書」、『現代新国語辞典』(学研)など。

ガイド 善福寺川は、善福寺池に端を発して杉並区を横断、中野区で神田川に合流する。流域には古墳時代の住居跡などが残る「松ノ木遺跡」をはじめ、大宮八幡宮や和田堀公園など見どころも多い。川沿いに桜並木もある。



父の植物図鑑忍ばせ
土手歩いた少年時代

「春に咲く花は好きです。ああ、立派な桃だ」。善福寺川ほとりの大きな桃の木の下でたたずんだ。草色の和服姿が桃の花の淡いピンクに映える。川沿いに並ぶ梅や桜の木を眺め、「子供のごとく比べるよ、このあたりは随分きれいに整備されましたね」と目を細めた。

いに戸惑った。「語尾にべを付けるんです。』『れんべえ』とね。弟のことを含弟、くたびれることを『がめる』という。言葉の違いで、最初はいじめられました」

「楽しかったですよ。中学に入ると、父親の植物図鑑を学生服のポケットに入れて、川沿いを調べて歩きました。今も高校時代に買った二代目のポケット植物図鑑を愛用。手ずれて所々ページが欠けている部分もあるが、半世紀以上わたって使っている。」

植物への興味と並んで、今も熱中しているのが作曲。高校時代、作曲家を志し、「七つの子」などで知られる本居長世氏の家に通った。ただ、神様が乗り移ったようにピアノを弾く本居氏を見て、「面白い。」

(垂)